

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第4回)

**PROCEEDINGS OF THE 4th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

(1980)

**国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE**

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 4th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1980

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, 142

目 次

あいさつ……………市 古 貞 次… 3

スナップ…………… 7

研究発表

三島由紀夫の近代能楽「熊野」について……………松 井 朔 子… 11

井伏鱒二の文学の日記……………ジョン・ツウリト… 24

「蜻蛉日記」と「とはずがたり」との考察……………ツベタナ・クリステワ… 34

宇治の垣間見について……………ルイス・クック… 43

日中両国における近代詩革命……………葉 寄 民… 51

和歌と時調の植物素材に関する考察……………李 相 澤… 68

梁塵秘抄と変文の関係についての一考察……………翁 蘇 倩 卿… 90

熊野比丘尼の絵解き……………林 雅 彦…109

講 演

平安朝の「風流」の一先駆者としてみた源融……………ベルナール・フランク…142

あ い さ つ

第4回国際日本文学研究集会の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

日本文学に関する研究会・学会は日本国内に多数ありまして、活発な研究集会が開かれているわけですが、外国の方々と一緒に日本文学の様々な問題を考えるという、国際的な研究集会というものは、長年ほとんどありませんでした。そこで私共は、海外の方々からのかねてのご希望も伺っていましたので、1977年に第1回の国際日本文学研究集会を当館において開催いたしました。当時、初めての企画でしたし、大変将来を危惧していたのですが、幸いにして参加されたの方々からご好評をいただきましたので、これに勇気づけられて引き続き毎年1回開催することを決心いたしました。ここに第4回目が開かれますのも皆様のご支援、ご協力によるところが大きいと存じます。

国文学研究資料館は1972年の5月に設立された大学の共同利用機関ですが、その主な事業をかいつままで申し上げますと、現存する明治以前の日本文学に関する文献資料を国の内外にわたって広く調査し、そのテキストをマイクロフィルムに収めて研究に役立てようという主旨のもとにつくられたもので、文献資料の収集・利用が本館の目的の一つです。さらにもう一つの目的と申しますのは、日本文学に関する研究文献など、あらゆる研究情報を収集整理して、研究者に提供し利用していただくということです。

今日、日本文学の研究は国内に限りましても非常に盛んで、毎年、論文の出る数は、5千点に達していますし、単行本として出版されるものは5百点以上になるかと思えます。このようなおびただしい研究情報を知ることはなかなか容易なことではありません。そこで国文学研究資料館では、それらの情報を収集し、コンピューターに入力しまして、研究論文や研究書が、何時、どこで、発表（出版）されたかを敏速にお知らせできるようにしたいと思っ

ています。さらに本年から単に1868年以前の日本文学の作品に限らず、すべての古典籍総合目録を作製し、伝本の所在や活字化の状況など諸々の情報を集積したいと考え、企画を進めております。これは一見国文学の領域から逸脱するように見えますが、しかし昨今の国文学の研究は、作品のみの調査だけでは不十分で、当時の歴史であるとか、あるいは時には医学・本草のことまで調べなければならないような場合がしばしば生じています。それ故、そういった広い意味での文化遺産の情報を網羅した目録をこしらえたいと考えているわけです。この目録については、将来は国文学者だけではなくて、幅広い日本の文化を考える方々にもご利用いただけるようになることと存じます。

要するに国文学研究資料館は、文献資料の調査・研究と、研究情報の収集・整備を中心とした日本文学あるいは文化の研究センターというべきものがありますが、特に強調したいことは、本館が収集した文献、情報を内外の研究者各位に大いに利用していただき、そして当館を共同研究の場にしたいということです。

本日、外国からお見えになった方々の中には、研究上いろいろご不便を感じていらっしゃる方もあるかと思いますが、そのような方々に対しても私共はできる限り、御相談に応じ、御便宜をおはかりしたいと考えておりますので、この国文学研究資料館につきましても何なりと御意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

国際日本文学研究集会は以上のような本館の設立の主旨・目的に添いまして、内外の日本文学研究者の参集を求め、研究発表と討論によって研究者相互の国際交流あるいは共同研究を行い、広い視野から日本文学研究の発展を計ることを目的として開いたものです。本年ご参加下さいました方々は約120名の多数に及んでおります。このように、前回にも増して多数の方々のご参加を得ましたことは主催者として大変ありがたく、心からお礼を申し上げる次第です。

なお、私共は毎年1回、11月の中旬頃にこの研究集会を開きたいと考えておりますので、お含みおき願いたいと思います。ただ、1983年には、日本学術会議などのお世話で、国際東洋学会議が、8、9月頃、外国から多勢の方をお迎えして開かれる予定になっております。日本文学も東洋学の一部門でありますから、私共はよろこんで、この東洋学会議に参加し、その中で応分の役割を果たしたいと考えております。そのため1983年の場合のみ、海外から東洋学会議に参加される日本文学関係の方々のご便宜をはかる意味で、この会議の前後に当研究集会を開くことがあるかもしれません。

本日は朝から雲がうすれまして、青空の澄みわたる大変よい天気になりました。このような秋晴の好天の下、2日間に亘って、行われるこの集会で、ディスカッションや、歓談などを通じて国際交流の実をあげていただくことを私共は期待しております。またそのことが、日本文学の将来の発展のために非常に大きな収益となるであろうことを信じております。

国文学研究資料館長
市古貞次

発行

昭和56年2月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 785-7131 (代)